

28言語に対応の 健康管理ツール

前橋のNPO開発

新型コロナウイルスなどによる感染症の予防に役立ててもらおうと、NPO法人「地域診療情報連携協議会」（前橋市）が健康管理システム「発熱パスポート」(<https://fever.center/>)を開発した。日々の体温や体調、医療機関の受診結果などを記録でき、外国人住民も使用でき

るよう28言語に対応している。

群馬大の酒巻哲夫名誉教授（医療情報学）が監修。平熱より体温が高かったり、下痢や味覚障害などの症状が出たりすると状態に応じてページの色が変わり、外出自粛や医療機関への相談を求めるメッセージが現れる。

県内は外国人住民も多く、英語やスペイン語など多言語に対応した。同協議会の齋藤清美理事長は「言葉の壁を越え、コロナ禍で共存するためのシステムとして導入してほしい」と話している。

個人利用は無料で、法人向け有償版も公開予定。アプリのダウンロードは不要でウェブブラウザから利用できる。【妹尾直道】

